

メールレター(27)

待ちわびた春

夜明けが早くなりました。6時頃でしょうか。早朝の窓辺の風景は雄大です。眼下のセントローレンスのゆったりとした(下は急流なようですが)川の流れの向こうに中州の二つの島が、さらにその向こうに小高い山並みがみえます。じーっと目を細めてみれば、アメリカとの国境の山脈が更にそのおくーの方に見えます。空は茜色に染まり、登りつつある日の光を背に受け、山並みはくっきりと輪郭が浮かび上がります。1日のうちで最も美しいモンリオールの風景かもしれません。

この二つの島は、大河の脇に運河を作る時の土砂で作った人工島です。万博会場に使われていました。古い城塞博物館とアメリカ館だったまん丸のバイオスフィア(環境学)博物館や今はカジノになっている優雅なフランス館があります。カジノは、出入りする車の流れの絶えない不夜城です。

五大湖からの流れと合流するセントローレンスは、この辺は急流な割には浅瀬で、大きな船が通れず、運河が作られたようです。流れは大西洋にまでずーっと続いていきます。川というより湖が移動するかのような川幅の広い大河です。

モンリオールでは、まだ木の芽はふきませんが、先日残雪の道端で見つけたチューリップの芽に春の訪れを感じて微笑みが浮かんできました。花の芽にも道行く人にも待ちわびた春です。

ドリトル先生は、季節の変わり目のせいか、体調を崩し、寝込むことが多くなりました。悪いところばかりだと唸って、団子虫のようにうずくまっています。

マダム田中は、お酒のテイステイングを目一杯楽しむことができました。イケバナインターナショナルでは、生花関係の年中行事の中に文化行事をいれることになっていて、今回は日本のお酒の企画をいれてみました。今、モンリオールは日本の酒が大ブーム。あるワインのソムリエが、「今年は何と言ったって、お酒を楽しみましょう。おいしいですよ。」と、テレビや新聞などで大絶賛して以来、猫も杓子も「酒、酒、酒。。。」というほどです。食事と合わせる企画もあちこちにあり、参加する友人も少くありません。こうなるとは考えてもみず、1年前に取り上げた企画です。正に、天の時のような好企画になりました。

会場は、おばさんメンバーに緑一点の男性メンバーを加えて、友人のピアノコンサートホールで行われました。このコンサートホールは、ピアノの全てを集中した、ある調律師の夢の殿堂です。ヤマハで初めての欧米人の調律師の訓練を受けた人がオーナーです。会場には無数のグランドピアノがおいてあり、壮観です。時々コンサートを企画したり、録音したり、ピアノを貸し出したりしています。隣は手作りのピアノの工房になっています。丁度、今の進化しすぎた音では

なく、昔の柔らかい音をもっと遠くまで響かせる、新しいタイプのピアノを作っているところでした。スタンダードピアノの形でグランドピアノ以上の音がでるのだそうです。もう発注先は決まっているとか。。。ちょっとだけ、音を聞かせてくれました。柔らかく、優しいのに強さのある音です。「待てよ、この音は、ずーっと前に、彼が聞かせてくれたイタリアの手作りのピアノの音に似ているかも。。。」と、あの美しい形のイタリアのグランドピアノが目には浮かんできました。

「これを作りあげないといけないから、僕はお酒のテイステイキングは辞退するから。よだれがでそうだけどね。。。手が1ミリでもぶれちゃいけないんだよ。」

何はともあれ、洒落ていて、エキゾチックな午後のひとときを楽しもうと、おばさんグループは、お酒のソムリエ(日本人)の講演会のとりこになったのでした。ケベックでは、州政府に直結するケベックアルコール協会がマフィアの如く、独占的にアルコール飲料を取り仕切っています。当節は、その直営店で、19種類の日本酒が販売されるようになったようです。日本酒は、アメリカでも醸造されていますし、トロントでも醸造されているようですが、メインは日本からの輸入です。おばさんたちは、ソムリエの説明で醸造過程や特色などの知識を高めながら、スパークリング、濁り、柚子入り、甘口、辛口、など5種類のお酒のテイステイキングを楽しみました。「乾杯、乾杯」テイステイキングの種類が変わるたびに、乾杯の声があがり、盛り上がりました。質問も多かったのですが、ソムリエのどこかコミックながら、優しい日本女性のキャラクターも反映し、会場は、終始、和やかな雰囲気にもまれていました。

まあ、それにしても、この日は、おばさんたちはいささか酔いが回っていたらしく、何とも忘れ物の多かったこと。